

事務経費にもコスト意識を！

インフルエンザワクチン接種助成事業

昨年10月臨時会において、新型コロナウイルス感染症の拡大が予測されるなか、症状で見分けがつきにくいインフルエンザの感染を防ごうと、インフルエンザワクチン接種の助成を行う事業予算案が可決し、実施されていますが、その周知の方法について「無駄遣いだ！」とのお声が寄せられています。



■65歳以上の方全員に案内を郵送

この予算での助成事業の対象者は、
①65歳以上の非課税世帯の方
②基礎疾患をお持ちの方
③妊婦
④小学校2年生までの子供さんです。

お一人につき2000円を上限に助成するのですが、①の対象者については、非課税世帯かどうかの情報はご本人からのお申し出がない限り担当課で情報はとれないとして、65歳以上の方全員（約3万4千人）に封書で案内通知や申請用紙を送りました。この事務にかかる経費（紙代、封筒代、印刷代、郵送料、封入作業に係る人件費）を私なりに試算してみましたが、250万円は下りません。

「封書が送られてきたけど、自分は非課税世帯じゃないし、助成の対象じゃない。」「郵送費がもったいない。」「こんなのが送られてきたら、対象者だと勘違い

して申請する人もいるのでは？」というご意見が寄せられました。担当課にもお叱りの電話が頻繁にかかってきたとのこと。

周知を徹底するという意図であったようですが、対象を絞って案内できるなら郵送は有効な周知手段でしょう。しかし、そ

れができないなら、広報やホームページなど電子媒体程度の周知で十分ではないでしょうか。第2面の「ふるさとレガシーギフト」も然り。事務経費にもコスト意識を持っていただきたいものです。

朝令暮改

ワクチン助成対象のうち、②～④については、9月11日の厚生労働省からの事務連絡「インフルエンザワクチンの優先的な接種対象者への呼びかけについて」に伴う対応で、①については市独自で対象としたものです。

しかし、①も昨年度までは助成対象者でしたが、3月の予算審査時に対象者についての説明もなく除外し、9月18日には下図のようなワクチン助成の案内がホームページに掲載されました。これで苦情でも寄せられたのでしょうか。10月臨時会で再び対象者となりました。このような重大なことがころころ変わる…相変わらずの迷走ぶりです。

対象

高齢者インフルエンザ予防接種の対象者で生活保護世帯に属する人

（今年度から非課税世帯に属する人は無料ではありませんのでご注意ください。）

生駒市電気購入是正等請求事件

平成31年(行ウ)第5号／令和2年(行ウ)第1号

原告 塩見牧子 被告 生駒市長 小紫雅史

令和3年2月16日(火) 判決言い渡し

13時10分～ 奈良地方裁判所201号法廷

いこま市民パワー(株)との随意契約は違法、無効であるとして、生駒市長に損害賠償請求しています。ご傍聴ください。

「塩見まきこ市議会ニュースレター2020年秋号」において、誤記がありました。お詫びして訂正いたします。

●第3面小見出し
(誤) この1年間の損失は9981千万円
(正) この1年間の損失は9981万円

●第4面見出し
(誤) 3年近くかけて「検討」。市民意見はこれから微取?
(正) 3年近くかけて「検討」。市民意見はこれから聴取?



こんな大事な予算案を専決処分！？

新型コロナワクチン接種事業

1月28日、議会運営委員会は、新型コロナワクチン接種事業の予算について市が専決処分することを事前承認しました。このため、当事業は市民の関心度も高く、運用に関して課題も多々あるのに、市民から見える場で質疑することもできなくなってしまいました。

事前承認のしくみは、市長による議決権の侵害を抑制するため、専決処分の妥当性（①議会を開く余裕がなかったのか。②専決して支障のない案件か。）を審議しようと、議会改革の一環で始まったものですが、最近は形骸化していると感じます。

判断できない、ころころ変わる、優先的に行るべき事業が市民感覚とズれていて、コスト感覚が欠如している、正しい手続きを踏まない…次から次へと呆れる事業が出てきます。とりわけ新型コロナウイルスの終息がなかなか見えないなか、市制50周年事業に浮かれる生駒市。コロナの蔓延がオンラインピックの開催時期と重なったのが国民にとっての不幸なら、市制50周年と重なったのは生駒市民にとっての不幸だと感じます。

塩見 牧子

塩見まきこの議会活動情報はこちらから。

塩見まきこ 検索



フェイスブック、ツイッターもやっています。



生駒市議会議員 塩見まきこ公式サイト shiomimakiko.com/
塩見まきこの活動日記(ブログ) katudo403.exblog.jp/

“まっすぐ”が通る生駒に！

しおみ

塩見まきこ

市議会 newsletter



2021年 冬号

発行責任者：塩見牧子 〒630-0213 生駒市東生駒 1-215-402 TEL:090-3057-7406 FAX:0743-74-8518 e-mail:shiomimakiko@yahoo.co.jp

市長の仕事は判断すること！～どうする？高齢者交通費等助成事業～

令和2年度生駒市一般会計補正予算(第10回)

令和2年12月定例会は、令和2年度の補正予算案、生涯学習施設や介護施設などの指定管理者指定議案など16議案、意見書案1件を審議したほか、分野別計画のパブリックコメント素案7件、生駒市立病院の中間報告、「水道事業等の統合（奈良県の水道事業広域化）に関する覚書、基本方針」など報告案件を調査し、12月18日に閉会しました。

令和2年度一般会計補正予算(第10回)については、新型コロナウイルス感染症の影響による事業実施の見送り、延長、縮小に伴う補正や、感染症対策のための事業予算が主な内容で、必要な措置と考えます。

しかし、令和3年度実施分の高齢者交通費等助成事業（生きいきクーポン）の債務負担行為の設定については、以前の

回数券が電子マネー（ICカード）へ移行し、現金配布と性質が変わらなくなつており、議会からは毎年のように制度設計を含め事業そのものの見直しを求める意見が出ています。また、行政改革推進委員会からも度々廃止すべきとの答申が出ているにも関わらず市は放置しています。

継続するのか廃止するのか、市長が方



見直しが先送りされている生きいきクーポンの見本
(生駒市ホームページから)

向性を示さない限り、職員も事務を進めることができず、同じ内容の議案提出が繰り返されます。塩見はこの件については「政治家の仕事は判断すること。早く方向性を示すべき。」と意見を付したうえで予算案には賛成しました。



今、それ？

コロナ対策と市制50周年記念事業、どっちが大事？

2020年12月議会一般質問 その1

昨年3月の令和2年度当初予算審査において、市長がいったん一般会計予算を取り下げてまで復活させる執着を見せた市制50周年関連事業。さすがに今年度初めから6月の補正予算までは新型コロナウイルス感染の対応に集中していると思いつか、市長公室の中に「市制50周年事業室」を設置したうえ、各部から職員を2、3人集めて専門部会（プロジェクトチーム）まで設置して、講演会やワークショップを開催し「どんな記念事業をやるのか？」を話していました。

同時に、福祉健康部では他部署の職員の応援を受けながらひとり10万円の特別定額給付金の支給業務に追われていました。この給付金には「できるだけ早く届ける」という使命があったはずですが、限られた人員の中で、こんな「人」の配分をしていたことに驚き呆れます。

■コロナ感染症対策本部会議も欠席！

さらに驚くべきことに、市長が本部長を務める新型コロナウイルス感染症対策

本部会議に市長は、4月30日以降、4～5回に1回の割合でしか出席していません。

■50年の債務負担の新規事業？

市制50周年記念事業基本方針と実施計画には、次の50年の発展につながる新規事業を創出するとありますが、こんなことは昨年度の総合計画の策定時にやっておくべきです。継続事業ですから毎年の財政負担も生じてきます。また、新

たな友好都市を締結するともあり、これも永続的に事業費が生じますが、予算措置のないまま締結ありきで現在、自治体の選考を進めています。議会はこれから50年を考えるための予算は認めましたが、50年先に向かっての事業費まで認めておらず、勇み足です。撤回すべきであるということを申し上げました。

市制50周年にかこつけていろんな継続的な事業が今後組み込まれそうで、令和3年度予算も要注意です。

塩見牧子（しおみまきこ） 1965年3月8日大阪生まれ。1972年に生駒に移り住む。生駒東小学校、緑ヶ丘中学校、京都女子高等学校、同大学卒業。同大学大学院文学研究科修了。会社員、学校図書館司書、中・高非常勤講師を経て2007年4月、生駒市議会議員に初当選。①将来世代に元気なまちのバトンを渡す、②誰もが生きづらさを感じることなく暮らせる共生社会をつくる、③フェアで市民本位の市政運営を築くための取組みやしくみづくりの提案を活動公約としています。